

腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症の固定手術を受けられる患者様へ

<予定入院期間 18日間>

1枚目(全2枚)

日数	入院当日	手術前日	手術当日		手術後1~2日目	手術後3日目
			手術前	手術後		
治療・処置			朝9時頃、手術部位に印をつけます。 	数時間、酸素マスクをつけます。検温をこまめに行います。心電図モニターをつけます	回診時(9時頃)に、手術創に入っている管の排液をみます。この時の量などで、管を抜くか判断します。	手術創に入っている管を抜きます。
薬・点滴		薬剤師から手術当日の点滴について説明があります。 	普段服用する薬がある場合は、その内容により朝分の内服をして戴きます。服用する薬はお伝えします。朝9時頃から点滴をします。	水分補給のための点滴が続きます。抗生物質の点滴もあります。適宜鎮痛剤を使って痛みをコントロールします。	点滴は日中で終了になります。	中止薬が再開となる場合があります。  
検査				血液検査のため採血をします。 	血液検査のため採血をします。 	血液検査のため採血をします。CT検査を行いません。
安静度	歩行は制限がありません。歩行器や車イスが必要な方はお申し出下さい。			ベッドの上で安静です。創の所に入っている管が抜けないう、寝返りは看護師が手伝います。	ベッドの上で安静です。腰部の保護のベルトをつけて、体を起こして過ごすことができます。看護師が手伝います。	歩行状況により、一人で歩行器での歩行が許可されます。 
食事		21時以降は食事は摂れません。飴やガムも食べれません。	食事は摂れません。水分制限は別途指示があります。	食事は摂れません。麻酔がさめたら水分を摂ることができませんが、看護師の指示に従ってください。	朝食から食事が摂れます。	
清潔		シャワーを浴びる、または体を拭いて清潔にします。一人で出来ない方は、看護師が手伝います。 	一人でシャワー浴ができる方は起床後、浴びていただきます。9時までに手術着に着替えて下さい。 		体を拭いて寝巻きに着替えます。 	
排泄				尿管がつながったまま戻ってきます。	看護師の付き添いでトイレに行けます。尿管は状況を見て抜きます。 	日中は歩行状況に応じて一人でトイレに行けます。夜間は看護師が付き添います。 
説明	入院・手術についてオリエンテーションを行います。	麻酔科医師・手術室看護師から説明があります。		主治医より手術の結果等説明があります。 		
その他		爪切りをして、マニキュアは落としてください。 	入れ歯、メガネ・コンタクトレンズ、補聴器、アクセサリ、ヘアピンなどは外してください。手術室に行く前に、圧迫靴下を履きます。	痛み止めの点滴がされています。痛みが強い場合、その他のお薬を使うこともできます。看護師にご相談ください。	痛みに応じてお薬で対処します。	腰に負担がかかる動作(前かがみ、重いものを持つ等)をしないようにしてください。 

腰部の保護ベルトは、横になっている時以外ははずさないでください。

腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症の固定手術を受けられる患者様へ

<予定入院期間 18日間>

2枚目 (全2枚)

	／ ～ ／	／ ～ ／	／	／	／	／
日数	手術後4～7日目	手術後8日目～14日目	退院			
治療・処置	毎日の回診時、創の診察をします。					
薬・点滴						
検査	手術後7日目 血液検査とレントゲン撮影をします。  	手術後14日目 血液検査のため採血をします。				
安静度	歩行状況により、一人で歩行器での歩行が許可されます。 	歩行状況により、歩行器なしでの歩行が許可されます。				
食事						
清潔	創の状態によって、シャワー浴ができる場合があります。看護師にご相談ください。					
排泄	日中は歩行状況に応じて一人でトイレに行けます。夜間は看護師が付き添います。 	夜間も一人でトイレに行けます。				
説明		主治医より退院についての説明があります。看護師より退院後の注意点に関する説明があります。				
その他	日常生活がリハビリになります。状態に応じて、リハビリ室でのリハビリを行う場合もあります。  					

包括ケア病棟へ移動し、退院に向けてリハビリや準備を進めていきます。